

「ウタとナンタのさかのぼり」観劇記

佐々木真理 2023.03.04 Facebook より加筆修正

「おきらく劇場ピロシマ」の「ウタとナンタのさかのぼり」という演劇を娘と観ました。

FB で中学の同級生が「私も出ます！」とアップしていたのでびっくりして調べたら、主催が「舞台芸術制作室 無色透明」という娘が昔お世話になって関わらせていただいていたところだったので行くことにしました。

劇団「おきらく劇場ピロシマ」は、障害のある人と共に演劇という舞台表現をみんなで楽しもうということを目指しているということですが、観終わったときはそんな趣旨すら忘れて観入っていました。確かに、出演者も観客もみんな楽しそうでした。

おきらくにご気楽なえんこう（猿猴、カッパ）の暮らすピロシマが舞台。ウタとナンタという子供のえんこうが、ひよんなことから過去（原爆が投下された直後のヒロシマ）へさかのぼり、その頃のえんこうたちに会い、現在のお気楽な自分たちえんこうに至るまでの経緯を知るというお話です。

涙あり笑いあり、そしてこの俳優がこの役を演じ台詞を発することでより効果的になるなど各俳優が適材適所という感じを受けました。

脚本が素晴らしいと思いました。昔から広島に伝わる猿猴川のかっぱの言い伝えを使って、原爆投下の悲惨さと再生を、今はお気楽なかっぱたちを通して、重た過ぎず、しかししっかりと観る者の胸に刻み付ける、そんな劇でした。

中学の同級生も頑張っていました。

久しぶりの演劇をたっぷり楽しめて大満足な一日でした。

